

南湖に放流したホンモロコの追跡調査

米田一紀・岡本晴夫・磯田能年・大植伸之

1. 目的

琵琶湖南湖の水産資源の再生をめざして、ホンモロコの稚魚（全長 20mm）放流が実施されている。水産試験場では放流された種苗を追跡調査することで、増殖促進効果を検討している。本項では令和元年 6 月 20 日～22 日に赤野井地区の水田より赤野井湾に流下させたホンモロコ標識魚（479 千尾放流。以下、赤野井放流魚）の追跡調査について報告する。

2. 方法

① 南湖での分布調査：6 月 13 日～8 月 1 日の期間に計 5 回、赤野井湾内の 7 地点においてビームトロール網による採集調査（以下、ビームトロール調査）を行った。また、3 月～7 月の期間、南湖の東岸 3 地点（草津市下物町地先、下寺町地先、志那町地先）に設置されたエリにおけるホンモロコの採捕状況調査（以下、エリ調査）を行った。

② 北湖での分布調査：北湖への赤野井放流魚の移動状況を明らかにするため、北湖での漁獲魚（刺網、沖曳網）の標識調査を行った。

3. 結果

① ビームトロール調査では、ホンモロコ稚魚は 141 尾採捕され、うち 18 尾が赤野井放流魚であった。8 月 1 日の調査では、ホンモロコの採捕尾数は 1 尾（赤野井放流魚 0 尾）となったことから、7 月末までに稚魚の多くが

赤野井湾外に移動したと考えられた。

エリ調査で得られた稚魚 7,619 尾のうち、赤野井放流魚は 176 尾であり、採捕魚全体に占める赤野井放流魚の割合は 2.3%となった。昨年度の結果（18.6%）と比較し、この割合は大きく低下したが、これは南湖におけるホンモロコ稚魚の資源量が急激に増加したことが要因であると思われる。

赤野井放流魚の採捕尾数は、草津市下物町地先（赤野井湾外縁部）のエリでは、6 月下旬にピークが見られ、7 月には低下した。一方、草津市下寺町地先および志那町地先では 7 月上旬より採捕され始め、調査終了まで採捕されたが、明確なピークは見られなかった。

② 秋期（10～11 月）の刺網で漁獲されたホンモロコ当歳魚 2,314 尾を調査したところ、うち 2 尾が赤野井放流魚であり、秋季の北湖への移動が確認された。

また、冬期（1～2 月）の沖曳網漁獲魚のうちホンモロコ当歳魚 6,334 尾を調査したところ、赤野井放流魚は 24 尾再捕された。生残率は 12.8%となり、昨年度（39.9%）よりも低下したが、他の南湖での放流魚の生残率と比較すると、平成 27 年度以降は高い値を維持している（表 1）。この理由のひとつとして、赤野井湾における外来魚の集中駆除により、放流直後の捕食による減少が抑制された可能性が考えられる。

表 1 南湖への放流魚および赤野井以外の水田流下魚（主に北湖に放流）の秋期までの生残率

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 元	平均
赤野井		1.9	10.8	13.7	20.2	39.9	12.8	16.5
草津市下笠沖	1.7	0.2	0.2	0.9	4.3	1.5		1.5
赤野井湾沖					4.3	7.3		5.8
その他水田流下	12.9	13.2	11.6	31.0	9.7	24.7	21.5	17.8